

西洋夜話

初集

福岡第一師範學校  
(學校圖書)

卷	第	號
冊	第	號
部	第	號
種	第	號
次	第	號
冊	第	號
分類	第	號
分番	第	號

雜文學

918.

T 131

24

N 64

明治辛未新刊

寧靜學人著

西洋夜話 初集

養愚堂梓

自序

近頃西洋の故事成記の書  
物世の妙之と難と或は文  
象讀之易かしくと至る  
きやよ解り難きもの多かれ  
先頃より讀書ありくかの西

西洋夜話

初集

一

洋の珍奇一奇なる話りきき  
 言葉の鄙しう成願ひに不及  
 ありし勸善懲惡の意をさるるつ  
 今ゆやもれを專一よ書と集  
 ぶやぶ紙教も街く二十冊りか  
 きと西洋夜話と題し書肆が

需に任せく様米ふ上もるもは  
 たりぬきと素より大人の目に  
 觸るんを最恥しきとあるは  
 四方乃雅兒達不見せまのせ  
 余老漢の心の一こ成讀むて知識  
 と廣しと書一助ともおん

西洋書言 初集

成希ふよなん

明治四年末の菱小梅の寓  
居よりとあること

寧靜字人

卷

初集目錄

○ 西洋人世界開闢の概

附 西洋諸國大洪水の事

○ 初て塔と建つ事

附 人民諸洲の移り住む事

○ 亞西利國女王天竺國王と戦争の事

附 亞西利國滅亡の事

西洋書言 初集目錄

○埃及國王平不立人以其惡しと虐く  
る事

附 平不立人埃及と遁き去る事

初集目錄

西洋夜話初集

寧靜學人 纂著

○西洋人世界開闢の説

附 西洋諸島大洪水の事

西洋人のソレ傳りる世界開闢の説

予りて 六十年以前の事と云や天竺國

より来た西の方よりあつりて波斯とい

ふ由り其又西より大河の邊に種々



神

天

の草木の花ふと嘆く 雲景色よき處  
 お初て男女二人 生トあり とも其名を  
 亞當 厄襪とリひ 子孫年々小繁昌  
 追々 市町村里と建て 住る といひ我  
 祖伊邪那岐伊邪那美の二神天降りま  
 國の事 汝風の便 小聞は傳へ 紙もよの  
 な〜んら

其て其後の人間次第ハ非道ハ臨リ  
 天神の御心ハ逆ハ諸般の悪業ヲ為シ  
 幸キハ其天罰ハ固リ開闢の後千六百  
 六十一年の秋より大雨降り出し夜  
 登ヤヒと云く十一月より積風大洪水  
 とあり何れも人々を驚かし鳥獸ハ至  
 らきて何れも以てたゞるべき甚く推  
 源も草木も枯れたりあり其頃

諾と恐と敬と人々の性質正直ハ天  
 通と前と此天災ハ天神の御告ハ  
 知り大なる船と造り置き小洪水日  
 小増し来きは妻子と名連き彼大船  
 に乗り陸に降りる鳥獸も一番  
 載りて遁ましか心細くも一艘  
 くと果すと云く蒼溟と云く

くは 漸く 雨やみ 次牙水も引く  
波 諾 亞 一族の 衆 大船を 阿  
羅 山 高き 山の 頂上 着き  
船と 出て 逃く 麓 下り  
て 南の方 住き 大洪水の 前 住 馬  
國の 邊 小 河 諾 亞 一家の もの  
生 子 殊り 親子 兄弟 若く 安堵の 思と

邦

あし 是より 再び 人間 繋 植 け  
ん 實 小 恐り 大洪水 あり 此 大洪水  
を 漢 出 帝 嚳 の 代 小 當り 也 又  
帝 堯 の 時 水 災 あり 獨り 我  
を 掛 卷 も 恐り 神の 濟 代 あり 誰に 惡  
業を 為 け 天 災 と 免 ね 多 かり 幸 小 災  
を 免 ね 天 災 と 免 ね 多 かり 幸 小 災



○初て塔と建ら事

附人民諸海に移り住む事

古昔大洪水の時小突難と免うれて廣  
 世界小只一家の釈子のとありて  
 殊りしを洪無とりし者の一族あり男  
 子三人有り長子と設莫とりし次と華  
 莫とりし又次以雅自得とりしは  
 其子孫返く小繁昌とりし有り昔

の大洪水を聞き傳ふる者の思ひなる  
 やう若又人間天意小怖らとりしは再  
 ひ昔のとき天罰あんと恐るる者  
 古の人を愚うさぬ高さ塔と建て洪水  
 の時を塔小登りて生命と全ふし  
 其内小塔の高さ天穹小届さなは天へ  
 小登らんと思ひ立ち粘ちと煙て日向  
 小燥り大河の東岸小礎と置きて爰

お積りけ松胎の如き物とぞて塗り塔  
めららとあり扱斯のしく日お積り月  
お積りて止むとあり是は夥しき高さ  
おありたきも天穿を尚ましく日月星  
を下りて見しお異らとありまは人  
の此頃の人を白癡あると言語お絶へ  
たり今佛門を塔と建らる何の意

うは知らねとも是も古古も同一主意  
まを初りし事とも思われたり  
まを扱置きまごひ頃の可笑事を言語  
の学問了ふものならねる人と随意の  
聲と出きののみまて更お定まりし言  
あさや思ひえけあく云わけらきて  
は互い何の事とも聞かしく被塔を  
建る職人あは高きおよ登り居て石

とも来よと味をれを下る職人を松  
 胎のよを思ひ遠へ又鉄櫃をくせし  
 いひりも反撃を登り河をなごして  
 互より少しと事たり殊小塔を次牙小  
 高くより言語通せね反愈塔と建る  
 も也今より又一日は天へ登るつま望  
 も今も絶へ果て詮方あるも反ち地成  
 撰りて移り候まんと思ひつる互言

語を劇馴しくとてあ連て何ふ一性  
 と是定あく諸方お分きてあ立たり茲  
 小諾西の長子設莫の子孫を遠く往ら  
 行して西細西海内止まり天竺邊に  
 候り次男華莫の子孫を西弗利加伽小  
 候りて埃及小候り末子雅白持の子孫  
 小西羅巴沙小候りて希羅小候りり  
 あり是各以諸洲の先祖とあり其子

孫諸公小漫延... 追て今の如く國... 西海人... 和漢の昔を

○亞西利國女王天竺國主と戦争の事

附 亞西利國滅亡の事 抑亞西利國の由来と妻と尋

ぬきは甚昔大洪水の後... 諸洲小分きて... 羅と... 以前小波斯湾の北

石... 八

小居る茂とり大なる都と建て國を  
亞西利と号け申り是も西國とて國号  
を稱へ政體と立るの初まりあり其後  
尼莫魯德とりし者あり諾亞の曾孫不  
りし都と波羅倫と稱しねは都を元  
の都よりもを大に立派ありし  
りし尼莫魯德の子尼紐斯とりし者秘  
めて立てるとあるは主没して後其後

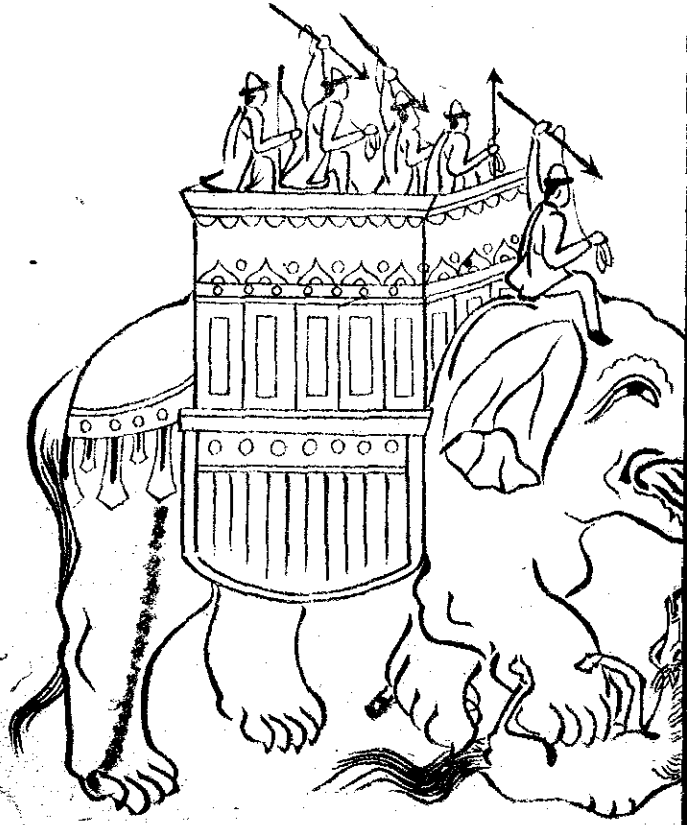
設孫羅密とりし者女王とありて國の  
政教執りたり傲慢にして奢侈を好  
む王宮を美と極め空中か懸る如く  
園圃を作り大木を植へ珠らし菜や  
美くし花をりしと更なり何一と  
て此園圃より物を取りしと  
あり然れど設孫羅密を伐りて是ら  
て此國を討てんと思ひし

守りも天竺國王の富に衆つる城羨と  
先づれを討んと大軍と起し東南の方  
に向て出立たり時小天竺を元より富  
強の國ありは國王の亞西利の女王  
押し寄りと來りて其玉を冠せん  
と聞くなりりやく夥しき兵士と集り  
防禦の備をせり然るに此國を  
の海らしき事を軍の備に  
夥多の大象

と用ゆるにりて藝くより訓練とせ  
置る軍の時々戦場を走り出く島頭と  
以て敵を投げたに蹄を踏く例と  
と教へたりは大象一匹を歩卒の五人  
をも向小程あり西西利の女王を  
りしと闘て大に恐るし奇妙の策と  
いてられを防んと先鹿毛の牛を  
匹と殺す其皮を剥き象の形を繪

い綴り駱駝は被せし  
 も象のよく見へり  
 天竺國王を大  
 小警と西利國は象  
 ありて  
 何より連來りし  
 とおて互に  
 利の方を備へ  
 らしと如きの  
 本陣と指し  
 馳せ向ひ

辨多の象と追ひ  
 追よ退り色  
 跡に大象を  
 上り一蹄  
 彼孫羅密も  
 約小鞭うりて  
 二と近り  
 波羅倫ある  
 華美と極り  
 王宮小  
 只一  
 駱駝を  
 逃け去り  
 虚空に  
 踏殺し  
 如き  
 車智の  
 命と  
 破の





其子居々亞斯の爲  
 小弒さす一とあり相も如王後孫羅密  
 を大母のまゝありりて國ちを安穩  
 小一弟民と撫育ふて成料らば名も  
 其軍と出て隣国攻敗り其富と奪  
 ひ取らんとのみと心小うけて生屋と  
 送りてりあさふと遠りて聖人らよ  
 たせよむいさるる前の事ゆへに欲せ

其の所人小施とと勿きとて禁戒と  
 知らずらん由らあるい一嗚呼女王  
 ら現在わつ子小弒さすも道理あり  
 人  
 斯て居々亞斯を其母と弒して亞西利  
 玉の王位小即しつ屋々亞新も其後  
 代々の王も兎角を拵情小流まて國  
 政をも顧えざるもの多うりて

すり凡八百年を經て撒達那波留と云  
者あり此の王位と續きける容顏  
美麗くして女色小耽り政勢小閑  
常小後宮の小女住居して夥多の宮女  
の中小交りて月思成送りたり小前後  
左右婦人の中小只一人男子あり変り  
ては似合しうらまへん面白かり  
送り或る婦人の衣裳と着ふとて福

つ森つ鹿と著しり然も凡  
世よ生まし人々たる王と貴人と雖  
も鹿ののみして日を送りてはいら  
て立命さやうをなす波の撒達那波留  
を鹿のよく酒色小ゆり樂し居る  
るありうら速埜斯とて國の大將小  
て阿貝巴私とてもの俄小大軍と以  
てあり寄せ来りりきは撒達那波留を

大い警き 榎子城 入るは 出は 何の 事  
 孫 遁り 道も あり たり とも 生 活 存  
 かな 生 捕ま 奴 隷 と あり せん 必 定 不  
 き 寧 死 ぬ 小 若 かり 覚 悟 と 極  
 の 王 宮 の 廣 間 小 賊 竅 と 積 上 り 吹 と  
 う け て 撤 達 形 波 留 と 壁 際 と 共 小 夥 多  
 の 美 女 と 集 り 官 中 小 坐 せ 忽 小 王  
 宮 一 國 の 火 と たり たり 是 山 王 王 烟 と

と 小 失 て 果 小 たり 形 小 永  
 く 柴 へ 一 亞 西 利 國 を 亡 び 迷 埜 斯 の  
 屬 國 と たり たり と あり 嗚 呼 恐 る 一  
 慎 心 也  
 ○ 埃 及 國 王 平 不 立 人 と 惡 事  
 附 平 不 立 人 埃 及 と 遁 去 事  
 埃 及 國 を 亞 非 利 加 海 の 西 小 河 り 此 國  
 今 衰 へ たり と 雖 古 盛 大 の

玉も開化も一時を世界第一とし  
わしちもなりき常々此玉小平不立人  
と他はより来りて信りて一種の人  
民より其由来は尋ねりし其昔西利  
國の人として阿武刺華年とりしもの  
り其妻と共々男女許々の券馬と引連  
き西の方あり可難とり玉も移りて  
信りしと奉國に立おし途中にて橋

この故障ありて新く流浪し居るなり  
漸くして可難玉も到りたり其子小  
日格事とりしものなり男子十二人と  
生りて成年大儀候なり玉も移りて  
移りて十二人の子と初り許々の人  
と引移り一同此の境及玉も来りて救  
助と求り人々幸々労働をとりて漸く  
露命と繋さたり斯く年月と移り程小

其時の仁恵ありき王と没して日格弗  
由死しむる故その小の悪王あり名紙  
波羅窩と叫ひける原不立人と號し  
之悪き善理非道小驕役い何とあり  
中も悪虐と以て極くの幸目と見え  
るるとあり然る平不立人と僅う五  
十年の百年の間小駱しと人数を増し  
今もは埃及國王と其國人より平不

五人多くなりあるは埃及人の為小善き  
事ありとありと思ひ立て平不立人の種  
を増きしりとも男子生るるは直  
小尼里とより大なる河小流をへり  
の教命と下しりり差一人の女あり  
男子生るるも何れも己ら生る  
るも男の子と何小棄り小忍りきは  
とありあひつ思案しりり棄れり母を

國王の命小背くの寇と以て死罪小行  
らるるに 命は思案小をきて居り  
しは 悔初ありぬ 國の法度違ひ叶はぬ  
とありきは 新らも果も 何らまじりと今に  
詮方ありくく 小菟蒲と以て舟と造りこ  
れよ 載せて 河の舟より 菟蒲の中は 緩  
くと 棄置き 帰ら 母親の心の中を 表さ  
るり 杉梅は 王の如く のまじり 来りり

て 菟蒲の中あり 赤子 汝見つけ 悪王の  
如く ありとも 流石 不便と 思ひ せん  
侍女 小りひ つけく 彼赤子と 採ひ 揚り  
させ 其子の 實母と 尋ね 出して さらけと  
雇ひ 赤子と 育て させ 名と 護設 斯と 呼  
て 王の 如く 朝夕 小 寵愛 する 其  
頃 侯 及 國は 世界 第一の 開化 なる 國に  
まは 不有 藝術 學問と 教へ させ 何不足



養育られしは 襖設斯と危き命  
 を助けりしものなほこの上もあき仕  
 命とのあきと 元来平不立人と襖設新  
 の一族とききは 遠くとも血脈成をらし  
 者ありし 當時の悪王は 倉らきく苦  
 け成恨らし何卒して 平不立人と助け  
 今の辛苦を免れ せききく思ひまは  
 何時に 埃乃命と遁え出て 可難水は内